

# エダマメ新品種

## 「春の舞」の品種特性と栽培のポイント

雪印種苗(株) 千葉研究農場

近江 公

### 1 はじめに

枝豆は古くからビールのつまみなどとして、多くの人々に親しまれてきましたが、高エネルギー、高たんぱくで、ビタミンA、B<sub>1</sub>、Cやカルシウムなどを多く含む栄養価の高い野菜として注目、期待され、夏期間だけでなく、ほぼ一年中をとおして消費されています。

枝豆の生産状況については、昭和63年をピークに作付面積が減少していましたが、平成7年以降はほぼ前年並みの横ばいで推移しており、ほぼ作付面積の減少も下げ止まった観があります(表1)。ただし、県別での推移については、必ずしも全国の推移と同様ではなく、依然減少している地域や反対に伸びている地域もあり、各産地において様々な動きが見られます。

一方、作型でみると、大部分は露地(マルチ含

表1 えだまめの作付および生産状況

	平成元年					平成10年					
	作付面積 (ha)	作付増減	収穫量 (t)	反収 (kg/10a)	出荷量 (t)	出荷割合 (%)					
全国	14,100	14,000	13,400	12,800	12,800	12,900	→	78,400	608	50,600	64.5
群馬	1,530	1,550	1,440	1,480	1,500	1,440	→	6,050	420	5,150	85.1
新潟	1,600	1,650	1,510	1,510	1,440	1,410	→	6,340	450	3,390	53.5
千葉	1,200	1,150	1,140	1,140	1,140	1,130	→	9,610	850	8,110	84.4
秋田	559	662	732	727	820	939	→	4,190	446	2,340	55.8
山形	581	578	581	530	757	889	→	5,260	592	2,680	51.0
埼玉	686	683	674	625	589	578	→	6,030	1,043	4,580	76.0
岩手	861	824	660	577	578	562	→	2,130	379	1,510	70.9
岐阜	456	492	491	475	465	455	→	2,790	613	2,180	78.1
神奈川	417	425	417	422	397	395	→	3,600	911	2,630	73.1
静岡	552	531	541	486	382	354	→	2,390	675	1,510	63.2
北海道	359	368	390		343	353	→	2,020	572	1,610	79.7
愛知	488	424	405	384	353	341	→	2,020	592	1,140	56.4

農水省野菜出荷統計より

む)栽培が依然主体となっていますが、ハウスやトンネル等の早出し栽培が、価格が高値で安定しており、また、各産地とも高齢化に伴う作付農家の減少を、作期の分散化でカバーしようという動きとも重なり、各地で作型の前進化がみられます。

そこで来春より販売を開始する新品種『春の舞』(試作系統名:SB1002)は、サッポロミドリより熟期の早い極早生品種で、各地での早出し栽培に利用できます。特に低温時期の着莢性に優れており、ハウスやトンネル等の作型に適した品種です。ここでは、本品種の特性並びに栽培のポイントについてご紹介します。

### 2 新品種『春の舞』の品種特性

当社では古くから枝豆の品種改良に取り組み、種子の採種適地である北海道の立地条件を生かし、現在も積極的にこなっています。既に極早生種では『サッポロミドリ』を、中早生種では『ユキムスメ』、『美園グリーン』、『キタノスズ』および『サヤムスメ』を、また、中晩生種では『サヤニシキ』をそれぞれ発表し、各産地でご好評いただいております。特に『サッポロミドリ』は古くから使っていただき、現在も根強い人気をばくしていますが、『春の舞』はサッポロミドリと同じ極早生種に属し、特に低温時の着莢性に優れた品種です。

#### 1) 早晩性

サッポロミドリより開花で1~2日程度、収穫適期で2~3日程度早



写真1 『春の舞』の草姿 トンネル早熟栽培での収穫適期時



写真2 『春の舞』ハウス栽培風景

く、極早生種に属します。ハウスからトンネル、露地栽培まで各作型とも、おおよそサッポロミドリより早く収穫できますが、気象条件（特に高温期）によっては、サッポロミドリとの熟期差が縮まることもあります。

## 2) 草 丈

草丈および主茎長はほぼサッポロミドリ並みで、葉はサッポロミドリ同様大葉になりますが、草勢はややおとなしくコンパクトで、サッポロミドリほど過繁茂になる心配は少ない品種です。

## 3) さやの特性

さやは白毛で、鮮緑でサッポロミドリよりやや淡い色ですが、サッポロミドリ同様ふくらとふくらみ、ボリューム感があり、品質に優れています。

## 4) 収 量

サッポロミドリとほぼ同様の着莢数ですが、実入りが良く、一莢重が重く多収となります。特にハウスやトンネル、また、条件の悪い時の露地栽培等において、低温時の着莢性が安定しており、落花や落莢、およびくず莢の発生が比較的少なく、早播きでの収量性に優れています。また、3粒莢の割合が高く、さや全体の30%程度を占め、規格内収量においても多収となります（表2）。

## 5) 食 味

サッポロミドリとは基本的に両親の組み合わせが異なっており、食味としてはユキムスメに近い味をしています。ユキムスメは旨味成分（主にアミノ酸類）より、やや甘味成分（主に糖類）の比率が高い系統で、市場評価はサッ

ポロミドリ並みに極めて高く、春の舞についても同等の評価が期待できます。ただし、食味については品種特性以上に、収穫ステージの早晚や栽培環境（天候、肥培管理等）、収穫後の鮮度保持等の影響のほうはるかに大きく、食味の良い高品質の枝豆生産にあたっては、これらの要因に対して十分留意する必要があります。

## 3 適作型と利用方法

前述のとおり、春の舞の品種特性を最大限に生かすにはハウス、トンネル等の早出し栽培が最も適しています。特に、関東周辺の移植栽培による枝付き出荷がおこなわれている産地においては、サッポロミドリとの組み合わせにおいて、低温時期に開花を迎えるハウス半促成や、トンネル早熟栽培を中心に春の舞を用い、トンネル後半から露地にかけては、従来のサッポロミドリを使つての継続出荷が可能となります。ただし、サヤムスメ

表2 『春の舞』の主要特性および収量（試験成績）（雪印種苗）

品 種 名	開花 始め (月/日)	収穫 適期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎 節数	さやの 大小 (9~1)	英色 (9~1)	莢長 (cm)	莢幅 (cm)	規格内 収量 (kg/a)	3粒 莢率 (%)
ハウス半促成：播種 H 9~H 11/02/26 定植 H 9/03/07, H 10~H 11/03/09 (3か年平均) (千葉)										
春の舞	4/16	5/19	33.9	7.0	6.5	6.1	5.53	1.42	55.7	32.4
品種T (S社)	4/14	5/18	35.9	7.2	5.8	5.8	5.45	1.31	51.5	19.2
サッポロミドリ	4/16	5/21	34.9	7.3	6.6	7.0	5.61	1.40	55.7	24.7
トンネル早熟：播種 H 9/03/11, H 10/03/10, H 11/03/12 定植 H 9/03/21, H 10/03/23, H 11/03/24 (3か年平均) (千葉)										
春の舞	4/29	6/5	23.6	7.0	6.7	6.4	5.60	1.44	71.9	38.0
品種T (S社)	4/28	6/3	25.8	7.2	6.0	6.1	5.35	1.29	60.6	21.2
サッポロミドリ	5/1	6/8	27.3	7.1	6.8	6.8	5.47	1.43	70.6	29.1
露地マルチ：播種 H 9/05/23, H 10/05/20 (2か年平均) (岩手, 秋田)										
春の舞	7/1	8/6	29.3	8.4	6.5	6.0	5.29	1.43	72.9	51.3
品種G (H社)	7/1	8/5	27.5	7.8	7.0	6.3	5.32	1.44	65.2	41.5
サッポロミドリ	7/2	8/9	29.7	8.3	6.9	6.5	5.29	1.43	65.5	37.2

評点基準 さやの大小：9(大)~1(小)、英色：9(濃緑色)~1(淡緑色)

表3 雪印のエダマメラインアップ (試作系統含)

早晚性	出荷形態		枝付き (移植)		さやもぎ (直播)			備 考	セールスポイント
	品種名	作型	ハウス・トンネル	露地(マルチ)	ハウス・トンネル	露地マルチ	露地		
極早生	サッポロミドリ		○	◎	○	△	×	枝付き出荷向き	食味優れる早生代表品種
	春の舞		◎	○	○	△	×	枝付き早出し出荷向き	低温着実性優れる、3粒莢多
中早生	サヤムスメ		○	◎	○	◎	△	枝付き、さやもぎ併用	濃緑、大莢、ボリュームあり
	SB1003*		◎	○	◎	○	△	併用早出し出荷向き	低温着実性優れる、サヤムスメよりヤヤ早
	ユキムスメ		×	×	◎	◎	△	さやもぎ出荷向き	食味優れる中早生代表品種
	美園グリーン		×	×	○	◎	△	同上	着莢多で食味良好
	キタノスズ		×	×	○	◎	△	同上	3粒莢多、密植に適する草姿
中 生	SB1009*		×	△	×	◎	○	一部併用、運出し向き	濃緑莢、草勢確保で多収
	SB1010*		×	×	×	◎	○	さやもぎ出荷 (一部運出し)	草勢強、着莢多、くず莢少
中晩生	サヤニシキ		×	×	×	△	◎	さやもぎ運出し出荷向き	草勢強、大莢、食味良好
中早生	茶豆-102 (早生系)*		△	△	△	△	○	作型検討中	香り、甘味強い早生種
中晩生	茶豆-104 (晩生系)*		×	×	×	×	◎	基本的に運出し用	香り、甘味強、着莢多、倒伏少

評価：◎：最適，○：適，△：場合によって適，×：不適 \*：試験 (試作) 系統

を中心に栽培されている地域については、サヤムスメとのさやの特性差が大きいため、事前に出荷先市場を十分確認された上で、取り入れることをお勧めします。

一方、直播栽培でさやもぎ出荷を行う西日本の産地や東北、高冷地の産地については、基本的に早出し用としての利用をお勧めしますが、各地で数多くの品種が組み合わせられており、その利用方法は多岐におよぶと推察されます。ご参考までに当社販売品種および試作系統の利用、作型別適品種の一覧表をまとめましたので活用ください(表3)。

## 4 栽培上の注意点

### 1) 作型による肥培管理の調整

サッポロミドリ並みの草丈になっても過繁茂になることは少なく、草勢については、やや強めにつくることが本品種の増収につながります。ただし、ハウス等で条件が良過ぎた場合、節間伸長や倒伏の恐れもあり、過度の密植や多肥栽培は避けてください。通常ハウス栽培では露地栽培より2～3割程度肥料を抑えめにします。

### 2) ハウス、トンネル内の温度管理

枝豆の収量が最も影響を受けやすい時期は開花期といわれています。一般的には開花期の適温は25～30℃前後で、15℃以下になると着莢が極めて不良になり、10℃以下ではほとんど落花してしまいます。反対に35℃以上でも花粉の稔性が悪くなり、不稔莢やくず莢の割合が増えます。本品種

についても、品種的には温度ストレスに対する順応度が高い特性を持っていますが、上記温度域を超えて着莢するのは作物上困難であり、温度管理については十分注意が必要です。特にハウス、トンネル内は日中と夜間の温度較差が大きく、換気と保温にはこまめな管理が求められます。トンネル栽培では有孔フィルムの活用などが一般的になり、不織布等のべたがけ資材との組み合わせで極力換気の手間

がかからないよう工夫がなされてきましたが、前述のとおり、開花期が最も重要な時期にあたるので、生育状況の確認も含め、できるだけ開花期はこまめなチェックを心がけてください。

### 3) 適期収穫の徹底 (無理のない作付面積)

本品種は葉色、莢色ともやや淡く、熟期が早い分、収穫適期以降の退色黄化もサッポロミドリより若干早い傾向にあります。収穫は遅れることがないように適期収穫を心がけてください。通常1回の播種分については5日程度で収穫を終える面積で作付けし、一挙に作り過ぎないように注意が必要です。

## 5 むすび

昨今のグルメブームや限定商品化等により、山形、新潟の茶豆や、京都、兵庫の黒豆等が枝豆としても脚光を浴びています。枝豆もいわゆる外観だけでなく、中身 (特に食味) に対する消費者の目も厳しくなっており、おいしい枝豆が求められています。産地によっては、生産者の名前を1袋ずつ記入して販売し、消費者への信頼を得ようとする取り組みも増えてきました。

『春の舞』は前述したとおり、食味についても高い評価が期待できますが、栽培や収穫時期、また、収穫後の鮮度維持によって大きく変化します。本品種につきましても、消費者の嗜好動向を見据えた、より品質重視の栽培に取り組んでいただければ、消費者からの高い評価が得られると確信しております。